
はじめに

町田 健

名古屋大学大学院文学研究科長

平成18年度に開始された文学研究科が推進する「魅力ある大学院教育」イニシアティブの事業が、2年目の19年度も順調に進行したことは、まことに喜ばしい限りです。大学院教育の実質化と国際化がますます強く要求されるようになった昨今、独創的な教育プログラムとして内外に認められた「人文学フィールドワーカー養成プログラム」は、この要求に適切に答えるものだと自負する資格が十分にあります。事実、大学院生の自発的な参加による国内外での調査実習が精力的に展開され、その成果は確実に研究を推進させる効果を果たし、課程博士論文や修士論文へと反映されつつあります。人文学に独創的な展開をもたらすことが期待される「人文学フィールドワーカー」の理念とその活動は、この報告書が雄弁に示している通り、その優れて革新的な成果を我々に誇らしめるものであります。

このプログラムがもたらしたもう一つの重要な成果は、大学院教育への新たなる熱意と関心を教員組織の間に惹起せしめたことです。研究科の教育全般に関する計画と組織化を職掌とし、このプログラムに合わせて設置された「教育研究推進室」の活動が、その典型的にして実質的な具現だと言えます。大学院設置基準の改正によって義務化された大学院教育のFDを積極的に推進する役割を果たしたのは、この部署です。定期的に開催された教育研究推進室ワークショップは、教育スタッフ相互の教育上の研鑽、および大学院教育をめぐる教員と大学院生の意見交換を実現する有効な場を提供してきました。

本プログラムのかかる優れた教育成果が、研究科および大学当局の支援を得て、大学院教育のさらなる発展に寄与し、名古屋大学文学研究科が実現した教育の産物に対する評価をますます高からしめることを確信すると同時に、改めて強く希望する次第です。